

全国



第 2174 号

市議会旬報

ぜんこくしぎかいじゅんぽう

令和3年 11月15日 (2021年)

毎月3回5の日に発行 発行 全国市議会議長会

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 代表 TEL 03 (3262) 5234 旬報 TEL 03 (3262) 2309 発行人 橋本 嘉一 https://www.si-gichokai.jp



議長会HP

頻発・激甚化する地震・集中豪雨

本会正副会長 熊本県被災地視察 ②

本紙では、昨年7月の熊本県豪雨災害、平成28年4月の熊本地震の被災地視察の様相を前号に続き報告する。本会の正副会長は、10月19日の人吉市に続き、同日午後八代市、翌日には熊本市を訪ね、復旧・復興状況を視察した。

球磨川氾濫の脅威

機能失った公共インフラ

令和2年7月4日、球磨川が氾濫し、人吉市は甚大な被害を受けたが、坂本町地区を直撃。幹線道路、駅舎が冠水し、鉄道、生活道路が全て寸断。市でも被害は大きかった。



深夜から雨量を増した球磨川が氾濫し、八代市坂本町地区を直撃。幹線道路、駅舎が冠水し、鉄道、生活道路が全て寸断。市でも被害は大きかった。JR肥薩線、JR坂本駅、消防署、銀行、農協、郵便局、診療所、駐在所、市役所坂本支所、坂本コミュニティセンター、護岸、森林組合、7月4日撮影

坂本町地区中心の八代市役所坂本支所、駐在所、消防署、銀行、郵便局など生活サービス拠点は濁流にのまれ、公共インフラは一切の機能を失った。正副会長による視察団は、八代市役所坂本支所仮庁舎を訪れ、当時の状況や同市議会の今後の



上村哲三元議長 (八代市)

折、何度も声を詰まらせ、目頭を抑えながら、

7月4日、坂本を襲った氾濫

「もう二度と思ひ出したくない」

令和2年7月4日、坂本町地区を襲った球磨川の氾濫。「当時のことを」と。もう二度と経験したくない、もう二度と思ひ出したくない、生涯味わいたくない。それが令和2年7月4日の被害です。災害時、同市議長だった上村哲三議員は、被災状況を回顧する折、何度も声を詰まらせ、目頭を抑えながら、



成松由紀夫議長 (八代市)

活動を方針などについて成松由紀夫市議会議長や議会事務局から話を聞いた。同議長が発災当時の緊迫した状況や、議会での緊張感に包まれた対応を映していく」と応えた。

構える高齢者宅から救助を求める連絡が入り、救助に向かった。どうにか助け出して避難所に連れていった後、貴重品を取りに行きたいというその高齢者の娘と一緒に家に戻ると、玄関先は既に腰の高さまで水位が増しており、とても中に入れる状態ではなかった。

衆院選 自民党261議席

第49回衆院選の投票率が10月31日行われ、自民党が公示前の276議席から減らしたものの、絶対安定多数となる261議席を獲得した。この結果を受け、同党は11月4日に総務会を開催、甘利明幹事長の辞任に伴う後任に茂木敏充外相の起用を決めた。

議員自ら救援・救護活動 保有するボートを活用

上村議員はこの後、川沿いに建つ家を巡回したが、住民は既に車で高台に避難しており、自身も避難しようとした矢先、「冠水して2階に孤立している」「2階が浸かりかけている」と立て続けに救援を求める連絡が入り、上村議員は自身が保有するボート3隻を繰り出し救助に向かった。

しかし、既に濁流の中に取り残された世帯もあり、二次災害への懸念から、県災害対策本部に救援へりを要請した。坂本町地区は、球磨川がくねくねと蛇行を繰り返した地形。この日の豪雨の影響で、本流が蛇行の始点の護岸にぶつかると箇所は特に水勢が激しさを増した。築堤を超えた濁流は家を軒並み、なぎ倒し、高台に避難した住民たちは、流されていく家をただ眺めているしかなかった。

上村議員はこの後、避難所に場所を移し、寝食忘れて住民の救援・救護活動で陣頭指揮を取り続けた。

しかし、徹夜で迎えた翌5日、避難所は、電気、水道、通信など生活インフラは全て断絶され、完全に孤立状態となり窮地に陥った。

このような中、球磨川水域の被災状況伝える報道へりが上空を旋回していたため、水が引いた小

コロナ禍での大災害

市執行部と議会一体で対応

成松議長は「コロナ禍での災害対応で非常に気を遣ったが、事務局職員を含め議会と執行部が一体となって対応に当たった」と説明した。

災害の発生を受け、八代は市災害対策本部を設置。市議会は災害対策会議を設置し、正副議長の指揮の下、全議員が構成員として対応に当たった。正副議長は、市災害対策本部会議に40回出席し、毎回、会議内容を全議員へ周知した。

市災害対策本部会議の運営は、議会からの提案で、まず国、県、消防、

学校の校庭に大きくコピー用紙を敷き詰めて「SOS」を描き、救助を求め、これがテレビで全国放映され、避難所にいた全員が自衛隊により救出された。

運営された。

また、個々の議員が市執行部と接触すれば、災害対応が遅延する危険から、執行部への直接の問合せは禁止。執行部との連携は議会事務局が一手に引き受けた。

議員から議会事務局への問い合わせは約1000件に上ったが、正副議長が市災害対策本部に出席して質疑応答を重ね、状況把握に努めた。得られた情報はその都度、各議員にFAXで送付した。

一方で、一部の議員からは市議会災害対策会議で具体的な対応を検討するよう求める声もあったが、被害状況がある程度把握できるようになった

本会研究フォーラム 上村議員が事例報告

本会研究フォーラムでは、八代市上村議員を報告者として招き「大災害・感染症と議会」をテーマとした課題討議を行う。【12月オンライン配信予定】

段階で、各常任委員会内に部会を設置し、調査内容や目的を絞って活動を行い、調査結果を市長へ報告するとともに、執行部との連携を図った。

市は昨年8月4日に復興推進課を設置、水害被害を受けた住民を含めた懇談会を開いたり、国・県・市議会・有識者・各団体との意見交換を進めたりするなど、坂本地区の復興に向け、力を注いでいる。

市議会では視察から3日後の10月22日、議員発議により「令和2年7月豪雨に関する特別委員会」の設置が決まり、復旧・復興に向けた取り組みを進めている。



JR肥薩線坂本駅:令和2年7月4日



JR肥薩線坂本駅:令和3年10月19日(視察時)



八代市役所坂本支所仮設庁舎で説明を受ける副会長

熊本地震から5年が経過 次世代へ伝承「震災記録誌」



伊藤 危機管理防災室
審議員 (熊本市)

熊本市の伊藤暢章政策局危機管理防災室審議員

の説明によると、熊本県には、布田川断層、日奈久断層と2つの断層があるが、政府の特別機関である「地震調査研究推進本部」地震調査委員会」が出していた予測では、布田川断層による今後30年以内の地震発生確率は0.9%。災害対策意識は、地震よりも台風に向かいがちだったという。

熊本地震が議会に投げかけたもの 災害が議会デジタル化の起点

通常の行政機能を保てる状態ではなかった。突然の襲ってきた災害に混乱する中、対策を検討する際に一番役に立つ

たのが神戸市、仙台市など震災の被災自治体が作成した「震災記録誌」だった。震災記録誌に急ぎ目を通し、どういう緊急対

策を取るべきか指南書として活用したという。熊本地震から5年が経過し、地震への関心が薄まりつつある中、伊藤氏

は、震災を通じて得た貴重な経験を「震災記録誌」として残し、次世代に伝承することが重要だと結んだ。

熊本市議会では、地震発生後、市民の安全を第一に、当時の議長の指示により混乱する市民に委員会室を避難所として開放。15日間で延べ520名の避難者が利用した。しかし、市議会も打撃を受け、さまざまな問題点が浮き彫りとなった。まだ議会のデジタル化



富永 議会局長
(熊本市)

た自然災害対策の充実の必要性を強く認識させられたという。

が進んでいなかったため、電話を利用した議員の安否確認は困難を極めた。FAXを利用した議員への災害情報の伝達も受信者側の紙切れ、インク切れなどで大量の資料の送付には不向きだった。

められていなかった。議員から執行部への情報提供に関するルールもなく、直接執行部に連絡することもあり、情報が錯綜し、混乱を来す事象も生じた。熊本地震は、議会に様々な問題を投げかけた。問題点の整理として、議会の富永健之局長は、議次のとおり説明した。

平成28年4月14日21時26分、熊本県を震源とする震度7の大地震が発生。これまで経験したことのない大地震は、県民を震撼させた。16日未明には本震とされる最大震度7を計測する地震が再度発生。震度6弱以上の地震は計7回、余震回数は4500回を超え、先行きの見えない状況に県内は大混乱に陥った。

また、既存のマニュアルは役に立たず、職員は、次から次へと殺到する電話対応に忙殺され、市庁舎、区役所のフロアには多くの避難者が押し寄せるなど、災害対応は混乱を極め、発災直後は

また、既存のマニュアルは役に立たず、職員は、次から次へと殺到する電話対応に忙殺され、市庁舎、区役所のフロアには多くの避難者が押し寄せるなど、災害対応は混乱を極め、発災直後は



原口 亮志 議長
(熊本市)

熊本市議会の原口亮志議長は、市議会としての今後の活動について、熊

た。熊本市議会では、地震発生後、市民の安全を第一に、当時の議長の指示により混乱する市民に委員会室を避難所として開放。15日間で延べ520名の避難者が利用した。しかし、市議会も打撃を受け、さまざまな問題点が浮き彫りとなった。まだ議会のデジタル化

熊本市議会では、地震発生後、市民の安全を第一に、当時の議長の指示により混乱する市民に委員会室を避難所として開放。15日間で延べ520名の避難者が利用した。しかし、市議会も打撃を受け、さまざまな問題点が浮き彫りとなった。まだ議会のデジタル化

熊本市議会では、地震発生後、市民の安全を第一に、当時の議長の指示により混乱する市民に委員会室を避難所として開放。15日間で延べ520名の避難者が利用した。しかし、市議会も打撃を受け、さまざまな問題点が浮き彫りとなった。まだ議会のデジタル化



熊本市、益城町、八代市、日奈久断層、人吉市

熊本市議会では、地震発生後、市民の安全を第一に、当時の議長の指示により混乱する市民に委員会室を避難所として開放。15日間で延べ520名の避難者が利用した。しかし、市議会も打撃を受け、さまざまな問題点が浮き彫りとなった。まだ議会のデジタル化

熊本市議会では、地震発生後、市民の安全を第一に、当時の議長の指示により混乱する市民に委員会室を避難所として開放。15日間で延べ520名の避難者が利用した。しかし、市議会も打撃を受け、さまざまな問題点が浮き彫りとなった。まだ議会のデジタル化

熊本市議会では、地震発生後、市民の安全を第一に、当時の議長の指示により混乱する市民に委員会室を避難所として開放。15日間で延べ520名の避難者が利用した。しかし、市議会も打撃を受け、さまざまな問題点が浮き彫りとなった。まだ議会のデジタル化

熊本市議会では、地震発生後、市民の安全を第一に、当時の議長の指示により混乱する市民に委員会室を避難所として開放。15日間で延べ520名の避難者が利用した。しかし、市議会も打撃を受け、さまざまな問題点が浮き彫りとなった。まだ議会のデジタル化

復興のシンボル 熊本城

令和3年3月

天守閣 復旧



地震により石垣が崩れた飯田丸一本の石垣でやぐらを支えた

- 熊本城復旧基本計画**
- 被災した石垣・建造物等の保全
 - 復興のシンボル「天守閣」の早期復旧
 - 石垣・建造物等の文化財的価値保全と計画的復旧
 - 復旧過程の段階的公開と活用
 - 最新技術も活用した安全対策の検討
 - 100年先を見据えた復元への礎づくり
 - 基本計画の策定・推進

たもの、地震によ

4月より一般公開をスタートさせた。天守閣は公開されたものの、地震によ

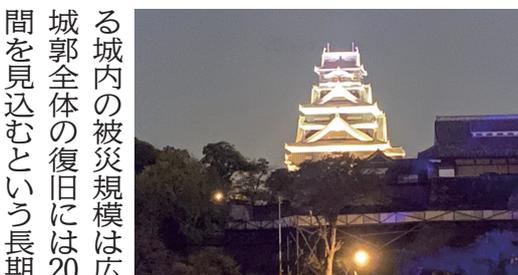
たもの、地震によ

加藤清正が築城し、日本三大名城にも数えられる熊本城。平成28年4月14日、熊本地震による二度の大きな揺れにより、熊本城も甚大な被害を受けた。熊本城の特徴である美しい石垣は、全体の3割が被災、石垣の上に

建つ重要文化財建造物13棟、城内の公園などすべてが修復の対象となった。この被害に対する修復計画策定まで1年以上の歳月を要し、平成30年3月に「熊本城復旧基本計画」が取りまとめられた。復帰に当たって、まず、被災した石垣の石材、建造物を適切に保全する作業から着手し、城内の応急処理を施した。そうした中でも市民・県民から「とにかく天守閣を早く復旧してほしい」との声が多く寄せられ、「市民・

市民の復興のシンボル」として早期修復を目指した。その結果、令和3年3月、無事に天守閣の復旧を成し遂げ、4月より一般公開をスタートさせた。天守閣は公開されたものの、地震によ

被災した石垣の石材、建造物を適切に保全する作業から着手し、城内の応急処理を施した。そうした中でも市民・県民から「とにかく天守閣を早く復旧してほしい」との声が多く寄せられ、「市民・市民の復興のシンボル」として早期修復を



ライトアップされた熊本城天守閣

第12回

八幡市

部会長市紹介



流れ橋(上津屋橋) (写真提供=八幡市)

【市の概要】

▽人口7万0013人(令和3年10月1日)

▽面積 24.35km²

▽歴史・沿革 古来、山陰や奈良、京都へ通じる水路、陸路の要衝として重要な役割を担ってきた。貞観2年(860年)に日本三大八幡宮の1社、石清水八幡宮が創建され、その門前町として栄えた。昭和29年に八幡町、都々城村、有智郷村の3町村が合併して新しい八幡町が生まれ、昭和52年11月に市制施行した。

にゆかりの深い竹と鳩をデザイン化した。周囲の円形の竹は、伸びゆく若い力と困難に打ち勝つ根強さを、中央の二羽の鳩は、市名の頭文字「八」をかたちどり、平和と友愛の精神を表現している。市の花はさつき、木はくすのき、鳥はしじゅうから、花木はつばき。

【議会の概要】

▽議員定数 21人(現在・男性16人、女性5人)

▽前回選挙 平成31年4月21日。立候補22人。投票率40.28%

▽シンボル 市章は、市建設を一つの節目として、さらなる議会改革に取り組む姿勢を見せている。

▽議会トピックス 令和5年1月に新庁舎が完成予定。市議会でも特別委員会を設けて市民目線に立った設計要望を重ねてきたほか、議会活性化特設委員会を設けてきた。新庁舎に暮らせるまち八幡市にぜひお越しくください。



市章



岡田秀子議長

議長の話

さらなる議会改革に取り組む姿勢を見せている。